

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	Orange			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 15日 ～ 令和8年 1月 15日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	39人	(回答者数)	27人
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 25日 ～ 令和8年 1月 15日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10人	(回答者数)	10人
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 2月 19日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	安心感を持ち・一定の信頼をいただけている アンケートでは、「子どもが安心して通えている」「通所を楽しみにしている」というお声が多く見られました。私たちは、支援の技術だけでなく、子どもがここに居ていいと思える安心感を大切にしています。通い始めは緊張するお子さまも、少しずつ表情がやわらぎ、活動に参加できるようになっていく——そうした変化を保護者の方と一緒に喜び合えることが、私たちの大きな強みだと受け止めています。	子どもは、一人ひとり「安心できる条件」が違います。音や人との距離が苦手、予定の変更が不安、切り替えが難しい、疲れやすい…など、背景はさまざまです。だからこそ、私たちは「この子にとっての安心」を丁寧に探し、支援に反映させています。また、急な予定変更が必要なときも、子どもにとって見通しが立つように、職員間で役割を調整しながら対応しています。日々の関わり方が人によって大きく変わらないよう、支援の一貫性(同じ方向性)を大切にしている点も、安心感につながっていると考えていますので、今後もより充実させ取り組んでいきたいと思っています。	安心感は「なんとなく」ではなく、支援の工夫の積み重ねで作られます。今後は、その安心の根拠をより見える形にして、保護者の皆さまにも共有していきます。たとえば、「なぜその声かけをしているのか」「どんな時に不安が強くなるのか」「どんな配慮をしているのか」を、連絡ノートや短い面談などで、わかりやすくお伝えする機会を増やします。また、困りごとが大きくなる前に小さなサインを早めにキャッチできるよう、面談・連絡ノート・必要に応じた短い電話など、連携方法の幅も広がっていきます。
2	支援の専門性と計画性 「子どもの特性を理解して支援してくれている」「支援が計画に沿っている」という評価が高く、日々の支援が場当たりではなく、目的をもって組み立てられていることが伝わっていると感じました。子どもの成長は一直線ではなく、波があります。その中でも、子どもにとって大切な力を整理し、長い目で見た支援を行うことが、私たちの支援の柱です。	私たちは、まず「その子を知る」ことから始めます。日々の観察、保護者からの情報、学校等との連携を踏まえ、子どもの得意・苦手、つまずきやすい場面、頑張れる条件を整理します(アセスメント)。その上で、個別支援計画を作り、実際の支援に落とし込み、職員間で共有し、必要があれば調整する——という流れを大切にしています。また、活動は「集団だけ」「個別だけ」ではなく、子どもの状態に合わせて個別と小集団を組み合わせています。必要に応じて専門的視点を取り入れながら、日々の支援の質を保つよう努めています。	計画そのものは良くても、「説明がわかりにくい」「言葉が難しい」と感じられることがある点は、真摯に受け止めています。今後は、計画の説明を誰が説明しても同じようにわかりやすい形に整えます。たとえば、 ・短く要点だけ伝える「3分説明」 ・専門用語をやさしい言葉に言い換えた一覧などを整備し、保護者の皆さまが「うちの子の支援は、こういう方向なんだ」と納得できるようにします。また、計画は作って終わりではありません。「今どこまで進んでいるか」「今は何を大事にしているか」を短い周期でお返することで、保護者の皆さまと同じ方向を向いた支援ができるようにしていきます。
3	活動の多様性 「芋掘り・大根掘り・公園・イベントなど、いろいろ経験させてくれる」「楽しませてくれる」という具体的なお声がありました。子どもにとって楽しい経験は、単なる余暇ではなく、挑戦や成功体験につながる大切な学びの機会です。私たちは、季節の行事や外出などを通して、子どもの世界が広がるような経験の場をつくることを大切にしています。	年間の行事計画を立てつつも、「子どもの状態」「集団の雰囲気」「その時期の課題」に合わせて活動を組み替えています。活動の様子は、写真付き報告等を活用してできる限りお伝えし、保護者の方が安心して見守れるよう工夫しています。また、活動がいつも同じにならないよう、職員間で企画の振り返りを行い、次につながる改善点を残すようにしています。	今後は、活動の「楽しい」に加えて、「どんな力につながっているか」も、よりわかりやすくお伝えしていきます。たとえば、外出一つでも、 ・初めての場所で落ち着く工夫など、子どもにとっては大きな学びがあります。これらを「5領域(健康・生活・運動・感覚・認知・行動・言語・コミュニケーション／人間関係・社会性)」と結びつけて、活動の意味が伝わる形にしていきます。さらに、活動後の振り返りを仕組みにして、年々プログラムの質が上がっていくように整えていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	「計画・制度・支援意図」が伝わりきっていない 個別支援計画や、支援の考え方(ガイドライン等)について、「わからない」「説明が分かりにくい」というお声が一定数ありました。支援の中身が不足しているというより、「伝え方」や「共有の仕方」に改善の余地があると受け止めています。保護者の皆さまが不安になるのは、支援が見えにくいときです。ここは大切な課題です。	支援計画には、どうしても専門的な言葉が入ります。また、保護者の皆さまの関心は、「今困っていること」「家庭でどうしたらいいか」「学校との連携はどうか」など多様で、同じ説明でも受け取り方が違います。さらに、説明が担当者やタイミングによって差が出てしまうと、「誰に聞いたらいいのかわからない」状態になりやすいと考えています。	わかる形に整えることを進めます。 ・専門用語の言い換え ・よくある質問集の整備 ・目標・支援の方向性・家庭との連携ポイントを「1枚」にまとめた・質問があった時に「どの職員でも説明できる」状態を目指し、職員間の共通理解を強化します。 これらの取り組みにより、保護者の皆さまが「うちの子の支援の方向性が分かった」と思える機会を増やしていきます。
2	家族支援・保護者同士・きょうだい交流が弱い(機会が少ない・分かりにくい) 家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や、保護者同士・きょうだいの交流に関する項目で、「わからない」「実施されていない」という回答が多い結果でした。必要性を感じておられるご家庭もある中で、十分な形になっていない点は課題です。	保護者同士の交流や集まりは、個人情報保護や、お子さまの障害特性への配慮、感染症対策など、慎重に進める必要があります。 加えて、「交流が負担になる保護者さま」や「集団が苦手なお子さま」もおられるため、一律の開催が難しい面があります。ただし、難しいで終わらせず、形を工夫すればできる部分があると考えています。	まずは情報提供(家庭で役立つ資料、外部研修の案内、保護者相談サービスの紹介、よくある悩みの共有)個別相談(希望者が安心して相談できる導線づくり) きょうだいについても、無理に交流機会を作るより先に、「きょうだいが抱えやすい悩み」への理解資料や相談の導線を整え、必要で、かつ、ご家庭に届く支援を優先していきます。

3	連絡・返信の速度と「職員の余裕」が見えにくい 「忙しそうに感じる」「返事を待たせてしまっている」という点は、保護者の皆さまの不安につながりやすい重要な課題です。実際には職員配置を手厚くしていても、そう見えない　そう感じる　ことで、安心感が揺らぐ可能性があります。	連絡手段が複数(連絡ノート、紙の報告、口頭、電話等)になりやすく、相談内容が「誰が受けて、誰が返すか」が曖昧になると返信が遅れやすくなります。また送迎等の都合で、支援後の振り返りや共有の時間が確保しづらい日もあります。結果として、「返事待ち」が発生してしまうことがあります。	・相談・連絡の一次受けルールを明確化(受け取った人が止めない、担当へ確実につなぐ) ・返信の見える化(すぐ答えが出ない場合も「確認中です」と中間返信) 保護者の皆さまに「返事が来る見通しが立つ」状態をつくり、不安が残らない連携を目指します。
---	--	---	--

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		Orange		公表日		令和 8 年 2 月 16日		
				利用児童数 39		回収数 27		
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環 境 ・ 体 制 整 備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	25 92.6%			2 7.4%		施設内の様子がわかるよう、お便り等で発信いたします。
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	16 59.3%	3 11.1%	1 25.9%	7 3.7%	忙しそうに感じる	職員は基準より2～3人多く配置し、手厚く支援をおこなっていますが、支援の振り返りをおこない、対応に余裕を持つて支援に取り組んでいきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	23 85.2%	2 7.4%		1 3.7%	2階なので仕方ないが入り口までの階段が少し危ないように感じる	段差による怪我がないように、職員の立ち位置など注意して移動をします。また、階段は常に電気をつけ明るくして、危険が最小になるよう、可能な限り環境を見直します。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	26 96.3%			1 3.7%		現状に満足せず、子どもたちがより快適に過ごせるよう環境整備していきます。
適 切 な 支 援 の 提 供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	25 92.6%			2 7.4%		高い評価を得ていますが、現状に満足せずより質の高い支援を提供していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	26 96.3%			1 3.7%		高い評価を得ていますが、現状に満足せずより質の高い支援を提供していきます。
	7	こどものことを十分に理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	25 92.6%	1 3.7%		1 3.7%		個別支援計画書について不満の声が出たことについて、重く受け止めなければなりません。定期的に電話で計画の振り返りを行う等、計画書の意図を保護者とも共有していけるようしていきます。
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	24 88.9%	1 3.7%		2 7.4%		児童発達支援ガイドラインについて、説明が不足していた点について、重く受け止めております。支援計画書についてご質問があったときに、どの職員もこたえられるよう周知を徹底いたします。
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	25 92.6%	1 3.7%		1 3.7%		計画書に基づいて支援を行っているため、わからないという声をいただいたことについて反省しております。定期的に電話やノート等で支援の方向性の確認ができるようにいたします。
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	23 85.2%	1 3.7%			お芋ほり、大根掘り、公園、他イベントも楽しませてくれる	四季折々、学期毎に合わせたイベントを企画・実施し、児童たちが様々な経験ができるよう支援を行っていきます。
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会がありますか。	16 59.3%	4 14.8%		7 25.9%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で難しいところもあります。児童の安心やわかりやすさは最優先で、外部行事への参加等検討していきます。
保 護 者	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	27 100%					高い評価を得ております。継続して、わかりやすく丁寧な説明を心がけます。
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	24 88.9%	1 3.7%		1 3.7%	計画の説明において分かりにくい部分がある。	説明がわかりづらかった点について、重く受け止めております。計画についてご質問があったときに、どの職員もこたえられるよう職員の教育や、よりわかりやすく説明できるよういたします。
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	5 18.5%	3 11.1%	6 22.2%	13 48.1%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で開催は難しいところがあります。研修会の情報提供等は、情報が入りお子様の成長段階や特性に合わせて随時できればと考えております。
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	24 88.9%	3 11.1			毎回支援内容を丁寧に教えてくださると、紙での写真付きの報告がとてもありがたいです	現状に満足せず、今後も丁寧な説明、報告を心がけていきます。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	20 74.1%	2 7.4%	2 7.4%	3 11.1%	・個人によって成長のスピードが違うので絶対ではないですが、面談の日数を増やしていただくと嬉しいです。 ・通い始めたころは、私も悩んでいたの、先生方にとても助けられました。	児童の成長、特性に合わせて支援方針について話し合いを行っていきます。また、保護者様のご希望について、連絡ノートの活用や、ご要望に応じて定期的な懇談の実施を検討いたします。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	25 92.6%	2 7.4%				連絡ノートでのやり取りが主となり、伝わりづらい状況になってしまっているかもしれません。ご家族が孤独感を感じずに済むよう、連絡ノートの使い方について改めて職員間で情報共有いたします。

への説明等	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだいの向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	3 11.1%	4 14.8%	7 25.9%	13 48.1%		個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で父母の会の開催は難しいところがあります。必要という声があれば今後開催を検討していきます。
	19	こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	18 66.7%	5 18.5%		4 14.8%		連絡や相談内容が滞りなく全員で共有できるようoutlookでの統一化を図っておりますが、お返事をお待たせしてしまっている現状があるのだと思います。重く受け止め、対応できる職員を増やせるよう教育してまいります。
	20	こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	22 81.5%	4 14.8%		1 3.7%		連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。直接の配布が難しい場合がありますので、書類があることを連携機関とも共有することや、活動でできたものを持ち帰る等できっかけづくりを行いたいと思います。
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	24 88.9%	2 7.4%		1 3.7%		毎月配布するお便りで活動報告や緊急時の連絡手段についてお知らせしています。直接の配布が難しい場合がありますので、お便りを配布した際は活動報告や連絡ノートで随時お知らせできるようにいたします。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22 81.5%	2 7.4%		3 11.1%		配布書類のミスが年に数件ありました。現在はチェック体制を多くする等でミスが減りましたが、継続して改善に努めます。
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	23 85.2%	1 3.7%		3 11.1%		感染症シーズンや時事に合わせ、お便りで取り組みや緊急時の対応について周知するようにいたします。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19 70.4%			8 29.6%		年に2回避難訓練を実施しておりますが、周知ができていなかったのだと思います。お便り等で避難訓練の様子を報告したり、取り組みについて発信するようにいたします。
	25	事業所より、こどもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	25 92.6%	1 3.7%		1 3.7%		個別支援計画書のご説明の際に、地震等災害時や緊急時における対応についてご説明しております。個別支援計画書について説明が不足しているお声があったので、こちらよりわかりやすいご説明や訪問での説明をするようにいたします。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	22 81.5%	1 3.7%		3 11.1%	まだ怪我したことがない	怪我のないようリスク管理を行い、情報を共有していきます。細心の注意を払って支援に取り組んでいきます。また、怪我、事故が発生した場合、速やかに必要な対応を行い、保護者様への報告、医療機関との連携を行い、児童の負担を最小限に抑えられるよう支援を行っていきます。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	26 96.3%			1 3.7%	小さいころから通わせてもらっているのでOrangeさん=安心（優しい）と認識していると思います。	児童が安心してすごせるよう今後も支援を行っています。
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	25 92.6%	1 3.7%		1 3.7%	・毎週楽しみにしています。 ・久しぶりの利用日は、緊張していますが、すぐに慣れていると教えて頂き安心しています。 ・行くのを嫌がる事はあるが、療育先に着くとニコニコと活動している。	利用日数や個々の特性がありますが、思いに寄り添い、理解し、その時々に合わせて支援を行っています。
	29	事業所の支援に満足していますか。	27 100%				・満足しているが、もう少し時間が長ければいいと思います。 ・どの先生も、温かく急な予定変更も臨機応変に対応してくださり感謝しております。	今後の運営において、時間の延長については、検討を進めつつ、質の高い支援を維持できるように職員一同心がけていきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
orange		2026年 2月 19日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		児童発達支援と放課後等デイサービスの空間を視覚化し、児童もわかりやすいよう配慮しています。児童の特性に合わせ小集団で学習できるように交代制にする等、活動を組み立てております。	現状に満足せず、活動しやすいスペースの確保を意識して運営していきます。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		児童の特性に合わせて個別に支援プログラムを計画しています。職員1人につき児童1～3人の個別・小集団療育ができるよう配置しております。ほかの職員と連携しより大きな集団で活動することもあります。STを配置し、専門的な視点の支援にも力を入れています。	今後も、児童の対応において、適切な職員数を考えながら、手厚い支援が続けていけるように取り組んでいきます。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	△		絵カードや文字で活動の見通しを立てられるよう構造化しています。各部屋にホワイトボードを設けています。児童の特性や活動に合わせて場所を使い分けできるよう空間を隔てています。	建物の構造上、事業所がビルの二階にあるため完全なバリアフリー化は難しいです。事業所内は段差がなく、敷居の凹凸等も最小になるよう配慮しています。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	△		児童利用後に次亜塩素酸ナトリウムでの消毒の徹底を行っています。加湿器やヒーターを適宜出し、乾燥せず快適に過ごせるよう配慮しています。児童がいない際は全部屋の換気を徹底しております。	児童増加に伴い、忘れ物や靴箱の混雑が課題になりました。上着・傘などを持参している児童には絵札を作り、児童も職員も持ち物を把握しやすいよう経過を見ております。靴箱についても、外履きと上履きの置き場を見直し、靴の間違いや玄関の混雑が解消できるかどうか見直し経過をみています。
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		パーティションを用意して、広い部屋の中に個別の空間が作れるように工夫して取り組んでいます。	児童の様子や活動において、適宜、必要があれば、個室の空間が用意できるように、臨機応変に対応できる環境を作れるようにします。
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		毎週おこなっている施設会議の中で、業務の目標設定や振り返りを行い、職員全体で改善方法を検討して対応できるように取り組んでいます。	今後もPDCAサイクルを用いて、職員全体で業務の把握や改善を出来るように、継続して取り組んでいきます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		定期的なアンケートの機会だけでなく、送迎時の保護者の聞き取りの場でも意向を把握して、ビジネスチャットを通じて情報を把握して業務の改善に努めています。	現状に満足せず、保護者の意向を把握するための機会を作り、意見を取り入れて支援に繋げていくことを考えながら運営していきます。
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		施設会議やビジネスチャット、日ごろのコミュニケーションを含めて、職員の意見を取り入れるようにして、業務の改善を行っています。	職員が意見を言い合える雰囲気作りも怠らず、より良い施設運営を行っていけるように意識して改善できるように取り組みます。
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	△		他事業所の助言や書類の確認等、関係機関による外部の評価をもとに、業務の改善をおこなっています。	今後も、自己判断だけで運営を行わず、他機関の協力を得ながら、評価の見直しを継続しておこなっていきます。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内でおこなっている研修で、専門性を高める機会を多く作っている。また適宜、外部研修の参加もおこない、職員の資質の向上に努めています。	研修後の振り返りをおこない、より質の高い会議を行っていくこと、また、職員が研修を行う機会を作ることで、更に質を上げていけるように運営していきます。
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに5領域の内容を提示して、その項目に合わせてプログラムを組み立てて取り組んでいます。	現状の内容に、不足している部分があるかの見直しをおこない、必要があれば修正してプログラムの再構築を検討していくようにします。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		児発管が定期的に懇談をおこない、児童の状況や保護者の思いについて聞き取りを行う中で、支援の方向性を考えながら計画の作成を行えるようにしています。	計画の更新において、未達成のものがある際は、次の計画で達成するための振り返りをおこない、状況の確認をして検討していけるように取り組んでいきます。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		計画の作成において、計画案をもとに、職員会議を開き、案に掲載されている目標と実際の支援とあっているかの確認をおこない、担当職員の意見を取り入れて必要な支援を盛り込んでいけるようにしています。	担当職員の意見を取り入れるだけでなく、担当以外の職員の考えも反映しながら、児童にとって最善の利益を考えられる支援を取り入れていける様に努めています。

適切な支援の提供	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		計画が作成、保護者説明をおこなったあとは、作成された内容の周知が行えるように回覧・共有を行い、計画に沿った支援ができるように取り組んでいます。	今後も継続して現状の対応が続けられるように維持して、計画をもとに支援ができるように進めていきます。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	△		標準化検査や、観察記録をとるといったことで、児童の状況把握をおこなえるように取り組んでいます。	より良い方法がないか、現状に満足せずに新しい手法を取り入れていくとも考えていくようにします。
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		アセスメントをもとに、本人や保護者の意見を加味しながら、支援の方向性を考えるように努めています。また、移行支援においても、施設内での支援に満足せずに、支援が地域の現場に返っていくように、計画に盛り込んで取り組みを進めるようにしています。	支援の方向性が本人にとって正しいかの検証や、本人、家族、移行する地域が望んでいるものかの検討をおこない、より具体的に支援に盛り込めるように会議の場で考えていき、再度確認していくことを継続して行います。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	△		各部会等、担当を設けて、企画・計画を立てることで、季節に合わせた行事や運営をおこなえるように努めています。	担当だけに任せずに、チーム全体で企画ごとに見直しをおこない、次の企画や計画に反映して、年々バージョンアップしていけるように今後も取り組んでいます。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎年行っている行事運営や外出等、固定化しないように活動をおこない、おこなったことの内容を職員間で共有できるようにしています。	運営や外出が同じにならないように、改善案の引き継ぎをおこなって、固定化しないように進めていきます。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		各児童の成長や発達を追って、児童の現状に最適な課題設定を組めるように、個別活動、小集団の活動ができることを考えながら支援を組み立てて対応しています。	児童の状況や状態に合わせて、臨機応変に個別活動や集団活動の対応の出し入れができるように努めていきます。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		ビジネスチャットを用いて、当日の動向の確認や、各児童担当が取り組むことや気を付けることについて、全体で情報共有ができるようにして連携をおこなっています。	情報の共有については、今後も抜けがないように取り組んでいくようにする。また、ビジネスチャットの活用で、今以上に連携を取りやすい方法がないか、考えていきます。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	△		ビジネスチャットを用いて、児童の活動の振り返りや、状況の確認をおこない、次の支援に繋げられるようにしている。	児童送迎があり、振り返りが弱い部分があると感じています。今後も、職員会議の場やビジネスチャットを活用して、支援の振り返りに努めて、対応にのぞんでいきます。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	△		個別ファイルで記録を残すことや、特記があった際に情報を共有できるように、記録に残すようにしている。また、施設会議で取り上げて検証できる時間を設けています。	記録の残し方について、書き方や閲覧のしやすさを検討して、職員全体で情報の共有と対応を考える機会に繋げていけるように取り組んでいきます。
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		懇談の場以外での保護者の聞き取りを行うようにして、支援計画の進捗具合や達成度合いを見ながら、計画の練り直しをおこなうようにしています。	園の送迎の場合に、保護者とのやりとりがなくなってしまうことがあります。連絡ノートでやり取りをおこなうなど、モニタリングの方法に幅を持たせて、支援に反映できるように努めていきます。
関	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児発管が参加をしていますが、余裕があれば、児童の対応職員の参加もおこない、関係機関との連携をとれるように進めています。	児童の対応職員が参加できない場合は、事前に状況について確認して、会議にのぞむようにしています。今後も、継続して確認をして、状況を把握しながら会議に臨めるように進めていきます。
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		相談支援を軸に、支援会議の場で各関係機関と連携をとることや、必要があれば、医療との連携も行い、手厚く支援ができる体制をとれるように進めています。	セルフプランの場合に、相談支援が入らないため、保護者の方との連携をとって、体制を整えています。必要があれば、弱み部分があります。必要な時は、各機関とうまく繋げることができるように、意識して取り組んでいます。
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		児童のサービス利用状況によっては、併用の利用もあるため、支援内容の共有を行えるようにしています。必要があれば、サービス担当者会議もおこなっています。	児童全体で見た時に、会議をおこなえていない児童もいます。今後は、各機関が連携しやすいように、つながりを持てるように努めていきます。
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		必要があれば、学校を交えた支援会議をおこない、児童発達支援時の情報を共有し、就学に繋げていける様に取り組んでいます。	相談支援が繋がっていないときに、小学校への連携が取れないときがあります。必要があれば、サポートブックを作成することで、情報をつなげていくとも考えていきます。

係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	28	(28～30は、センターのみ回答)	－			
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	－			
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	－			
	31	(31は、事業所のみ回答)	△		市の児童発達支援事業所の集まりの中で、ケースについて取り上げて、支援の幅を上げてくことや、各施設での支援の底上げをする機会を作って、取り組んでいます。	頻度が少ないため、交流の機会が少ないのが現状と考えています。今後も、集まる機会を大切にしながら、助言をうけることや、支援の底上げをできるように努めています。
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	△		公園や外出等でほかの利用客もいる中での活動の機会があります。	個人情報保護の兼ね合いや感染症対策、特性への配慮の関係で現状難しいです。要望があれば参加を検討します。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		子どもの成長や取り組み内容について、職員間で話合うようにしています。複数名の職員が関わる児童については事業所内でノートを活用し、発達状況や取り組み内容について共有し、対応を一貫できるようにしています。	保護者からも職員からも、わからない、という回答があった事実を重く受け止めております。こどもの発達状況や課題について、ビジネスチャットも活用しながら全員で共有し、保護者へもお伝えできるようにします。
保 護 者 へ の 説 明 等	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	△		ご家族の事情や児童の発達、特性に合わせて、ご家庭でできる取り組みを提案したり一緒に考えたりするようにしています。	児童一人ひとり特性や発達が異なるため、一概にペアレント・トレーニングや研修等が難しい現状です。ですが、特性や発達についての説明はできると思いますので、職員が児童の特性や発達について言語化する機会を作っています。
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に、運営規定や支援プログラム、利用者負担等についてご説明しています。同意を得てから利用を始められるよう徹底しています。	児童発達支援管理責任者が主に説明をしているので、内容を知らない職員も数名いました。支援内容や運営理念については十分理解していると思うのですが、運営規定や利用者負担等制度についても理解を深めていけるよう職員教育に努めます。
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		保護者から様子の聞き取りや、支援計画の達成度合いについて確認を行っています。聞き取りの内容と計画を照らし合わせ、適宜計画の見直しを行っています。聞き取りの中で、保護者の要望やこどもの意向を確認するようにしています。	わからない、という回答があった事実を受け止め、児童発達支援計画書の意図を職員へ周知いたします。
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		児童発達支援計画書について、計画案を職員間で回覧し、意見交換をした上で保護者に説明を行っています。	児童発達支援計画書についてわからない職員もいたため、作成者や児童と関りのある職員だけでなく全員で内容を把握できるよう徹底します。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時での会話や連絡ノートで相談にお答えできるようにしています。	新人職員等はすぐにお答えすることが難しいため、保護者からの相談内容を職員間で共有しすぐお返事できるよう体制を整えます。
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	△		当事業所を利用していた児童の保護者から、「進路・育児等の相談に乗りたい」との提案があり、該当する児童の保護者へご案内をしました。送迎時に利用者本人だけでなく、きょうだい児についての育児等の相談もお聞きするようにしています。	個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で父母の会の開催は難しい現状があります。要望があれば検討します。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		送迎時での会話や連絡ノートで適宜相談にお答えできるようにしています。すぐなお返事が難しい場合はビジネスチャットで相談内容を職員間で共有し、各職員の専門分野から相談内容にお返事できるようにしています。	新人職員等はすぐにお答えすることが難しいため、保護者からの相談内容を職員間で共有しすぐお返事できるよう体制を整えます。また、「相談があった」ということを職員全員で情報共有し、相談のご返答まで確認するよういたします。
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		毎月お便りを配布しています。お便りの内容は、緊急連絡先や災害等緊急時の対応、該当月の活動報告の写真、ホームページアドレス等を書いていきます。ホームページにスタッフブログがあり、そちらでも活動報告の詳細を書いております。	保護者からお便りやホームページのブログがわからないという回答をいただきました。お便りの配布やブログの更新があった場合は配布の際に合わせてご説明するよう職員へ周知します。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。	保護者の回答結果と比較したときに、「できている」と答えた職員の回答数が多く差がある状況でした。職員と保護者の感じ方に差ができていくことは重く受け止めています。

	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		連絡ノートでのやり取りや、毎日活動の終わりに写真付きの活動報告書を保護者へ配布しております。	保護者の回答結果と比較したときに、「できている」と答えた職員の回答数が多く差がある状況でした。職員と保護者の感じ方に差ができていることは重く受け止めています。
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	地域の方のご協力で竹の寄付をいただき、七夕や門松で使わせていただきました。味覚狩り体験等も参加させていただいております。	個人情報保護の兼ね合いや、児童の障害特性の配慮の関係で地域住民の招待は難しいところがあります。味覚狩り等も、地域の方のご都合もあるのですべての児童の参加は難しい現状です。要望があれば検討します。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各マニュアルは作成し事務所に保管しています。誰でもいつでも確認できるよう、マニュアルの場所を固定化しています。	定期的にマニュアルの場所について職員間で共有します。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年に2回、非常災害を想定した避難訓練を実施しています。実施後は振り返りを行い、不足していた点はすぐに改善に努めるようしています。	休みや活動の兼ね合いで一部の職員が参加しています。なるべく多くの職員が参加できるよう、日時の調整をいたします。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		てんかん発作の有無や病歴・手術歴、必要な配慮等を契約の際に聞き取りしています。てんかん発作は本年度外部研修に参加し、対応について理解を深めることができました。	てんかん発作があった際の対応方法を適宜職員間で情報共有します。緊急連絡先や対応マニュアルの所在を再度共有します。
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		児童ひとりひとりのアレルギーの有無や食事方法、偏食の有無などを聞き取りし記録しています。児童発達支援は間食等の提供をしていますが、イベントの際は景品でお渡しすることがありますが、アレルギーフリーのお菓子を提供するようにしています。	開設当時から保護者からのご要望も特にないため、医師の指示書はいただいていません。保護者の要望があったときはお預かりし、保管するようにいたします。
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画をもとに訓練を実施しています。実施後は振り返りを行い、不足していた点はすぐに改善に努めるようしています。	休みや活動の兼ね合いで一部の職員が参加しています。なるべく多くの職員が参加できるよう、日時の調整をいたします。
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		毎月配布しているお便りで、児童の体調不良や災害時における対応を保護者へお伝えしています。	感染症の流行時期等、適宜職員へ発信し対応を統一できるようにします。
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		ビジネスチャットを活用し、ヒヤリハットがあった場合はすぐに共有できるようにしています。ヒヤリハット報告書で、再発防止策を検討しています。	高い評価でした。現状の形式を継続しながら、再発防止に向けて職員間で意見交換する機会を今後も設けます。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		施設内で年1回以上虐待防止研修を行っています。施設外の虐待防止研修についても参加を心がけています。虐待が発生しないよう、職員間でのコミュニケーションや支援の相談等を積極的に行っています。	高い評価でした。今後も虐待防止に努めます。
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		職員間で事前に共有したうえで災害時等緊急時における身体拘束について、適宜説明するようになっています。	高い評価でした。現状の形式を継続しながら、誰でも保護者へわかりやすく説明できるよう研鑽します。